

校長あいさつ

山形県立鶴岡中央高等学校は、平成１０年に県立鶴岡家政高等学校と県立鶴岡西高等学校を統合して設立された普通科と総合学科を有する学校です。その建学の精神を受け継ぎ、「立志・気づき・共生」を校訓とし、「夢を夢でおわらせない力（立志）、いつもだれかを思って考えられる力（気づき）、ふるさとのために活動する力（共生）」を持った生徒の育成を目指しています。本校では、探究的な学習や仲間や地域との関りを重視した体験的・実践的な学習に取り組み、これらの学習をとおして、視野や価値観を広げ、コミュニケーション力を高め、「学ぶ楽しさ」を知ってほしいと考えています。また、各科において「総合的な探究の時間」では、現代社会や地域社会の課題を高校生の視点で捉え、考察し、解決策を提案する活動を行っています。知識、技能・技術の習得と思考力、判断力、創造力、表現力の向上をめざし、そして豊かな人間性を身に付けた、次代を担い、地域を担う人材を育成しています。

本校は、ＪＲ鶴岡駅から徒歩１５分、北に鳥海山、東に月山を望み、庄内平野の大地に立ち、加えて「鶴岡サイエンスパーク」として多くの研究施設等が集積する地域にあり、すばらしい自然と文化にあふれる環境の中にあります。サイエンスパークには、世界最先端の研究開発をしている慶應義塾大学先端生命科学研究所（ＩＡＢ）があり、「Ｕ－１８研究助手制度」を通じた高大連携を結んでいます。この制度を利用し、ＩＡＢの研究助手に採用された多くの鶴岡中央生が世界最先端の研究の一翼を担っています。この経験を活かして進学し、研究職に就き活躍している卒業生もいます。

また、地元鶴岡は伝統的産業の絹生産地であり、「サムライゆかりのシルク～日本近代化の原風景に会う町鶴岡」として日本遺産に認定され、生徒は「シルクガールズ」としてプロジェクトに取り組んでいます。他にも、保育施設や小学校と連携した出前授業の実践や地域活性化に係る活動への参加など、実に様々な分野で活動しています。

学びを活かし、地域やふるさとと共生する実践は、本校の魅力の一つです。地域に根ざした教育活動を推進し、地域の皆さまに愛され、地域に必要とされる学校として教職員・生徒・学校関係者が一丸となって、活力あふれる学校づくりを進めてまいりますので、ご支援・ご協力をお願いいたします。